

目 次

はしがき

序　日本中世史像の現在

はじめに——日本史研究会の頃——

一

1 「時代像」を描けない時代

中世史像を考える——在地領主制論と百姓論の狭間で——

三

(1) 石母田・鈴木論争

五

(2) 在地領主制と百姓・村落支配

六

(3) 百姓論・農民鬭争論の成果

七

3 王朝国家と在地領主制的展開

一〇

(1) 王朝国家の成立と「百姓」身分

一〇

(2) 王朝国家体制下の富豪層の運動

一一

(3) 在地領主制的展開と「住人等」結合

一二

一五

4	延久莊園整理令の意義	一六
5	王朝国家期以後への展望	一六
おわりに		一元
補論	百姓身分論争	二四
1	百姓の階級的性格	二四
2	「式目四二条」と「移動の自由」論争	二五
3	「式目四二条」と逃散をめぐる論争	二六
I	住人等解と住人身分	
一	成立期「住人等解」の性格について	三〇
はじめに		三〇
1	一二世紀後半の「住人等解」の特徴	三一
2	「住人等解」と「莊解」「莊司等解」	三一
3	「住人解」と「莊司等解」との関係	三七
4	「莊司等解」と「住人逃散」	三九
5	成立期「住人等解」の性格とその前提	四一

二 成立期「住人等解」と「住人」

はじめに

1 「住人等解」の再検討

- (1) 天喜元年 美濃国西郡莊司住人等解案 吾
(2) 天喜三年 美濃國大井莊住人等解案 壴
(3) 天喜四年 山城國石垣莊住人等解案 杏
小括

2 「住人」の用法

- (1) 天喜元年以前の用例 一
(2) 天喜元年以後の用例 一
小括

むすびにかえて

三 「住人等解」の基礎的考察

はじめに

1 「住人等解」の個別的検討

まとめ

四 「住人」身分の成立と「公」性

はじめに

一〇五

1 「住人」身分の成立過程

(1) 「住人等解」成立の前提

一〇七

(2) 「住人」身分成立の前提

一〇九

(3) 「住人」身分の成立

一一三

2 「住人等」組織の「公」性

(1) 政所下文の宛所

一一四

(2) 「住人等」と在地法

一一五

(3) 「住人等」と検断

一一七

3 「莊民一味」の成立

一一九

II 百姓と百姓等申状

一 中世百姓の成立

はじめに

一二六

1 平民論・百姓論の批判的検討

一二〇

2 中世百姓の成立

一二三

(1) 一〇・一二世紀中葉の農民呼称 一三九

(2) 「住人」と「平民」「百姓」 一四〇

(3) 「百姓」の成立と一国平均役 一四五

まとめにかえて 一五二

二 「御成敗式目」四二一条と中世百姓 一五六

はじめに 一五六

1 「四二一条」の構造 一六〇

2 「逃毀」と「追捕」 一六四

3 イエ・妻子と「四二一条」 一七七

4 「去留民意文言」の意味 一七一

むすびにかえて 一七四

三 「浪人招寄せ」・「移動の自由」と中世百姓 一七七

はじめに 一七七

1 「浪人招寄せ」の意味 一七九

(1) 「比国」「他国」から「浪人を招寄せ」る意味 一八〇

(2) 一般的な浪人を「招寄せ」ることの意味 一八一

2 「浪人を招居え」ることの意味

- (1) 鎌倉時代の「招寄せ」 一八六
- (2) 「浪人招居え」の一般的特徴 一八八
- (3) 「浪人招居え」の要因 一九二
- (4) 「百姓逃死亡跡」をめぐる領家と地頭 一九六

3 中世百姓の「移動の自由」、「請作の自由」をめぐつて
むすびにかえて 一九一

四 「百姓等申状」 覚書

はじめに 二〇七

1 蔵持・山本両論文の内容と意義 二一〇

- (1) 蔵持「百姓申状」の性格について 二一〇
- (2) 山本「莊園制と百姓等申状」 二二二
- (3) 課題 二四四

2 連署と起請文 二五五

3 二種の百姓等申状——とくに書状形式の申状について—— 二五九

むすびにかえて——莊園制統治システムと百姓等申状—— 二五六

III 解と申状

一 平安前・中期における「解」の性格

はじめに

1 共同研究「下意上達文書の変遷」の検討

二三四

2 申請型解の分析

二三七

3 「莊官解」と「莊官等解」

二四四

まとめにかえて

二五〇

二 申状の系譜

はじめに

1 申状と申文

二五六

(1) 解と申状と申文

二五六

(2) 「申状」という文書

二五九

(3) 「申文」という文書

二六三

2 解と申文

二六六

(1) 申請型解と申文型解

二七四

(2) 申文型解と住人等解

二七五